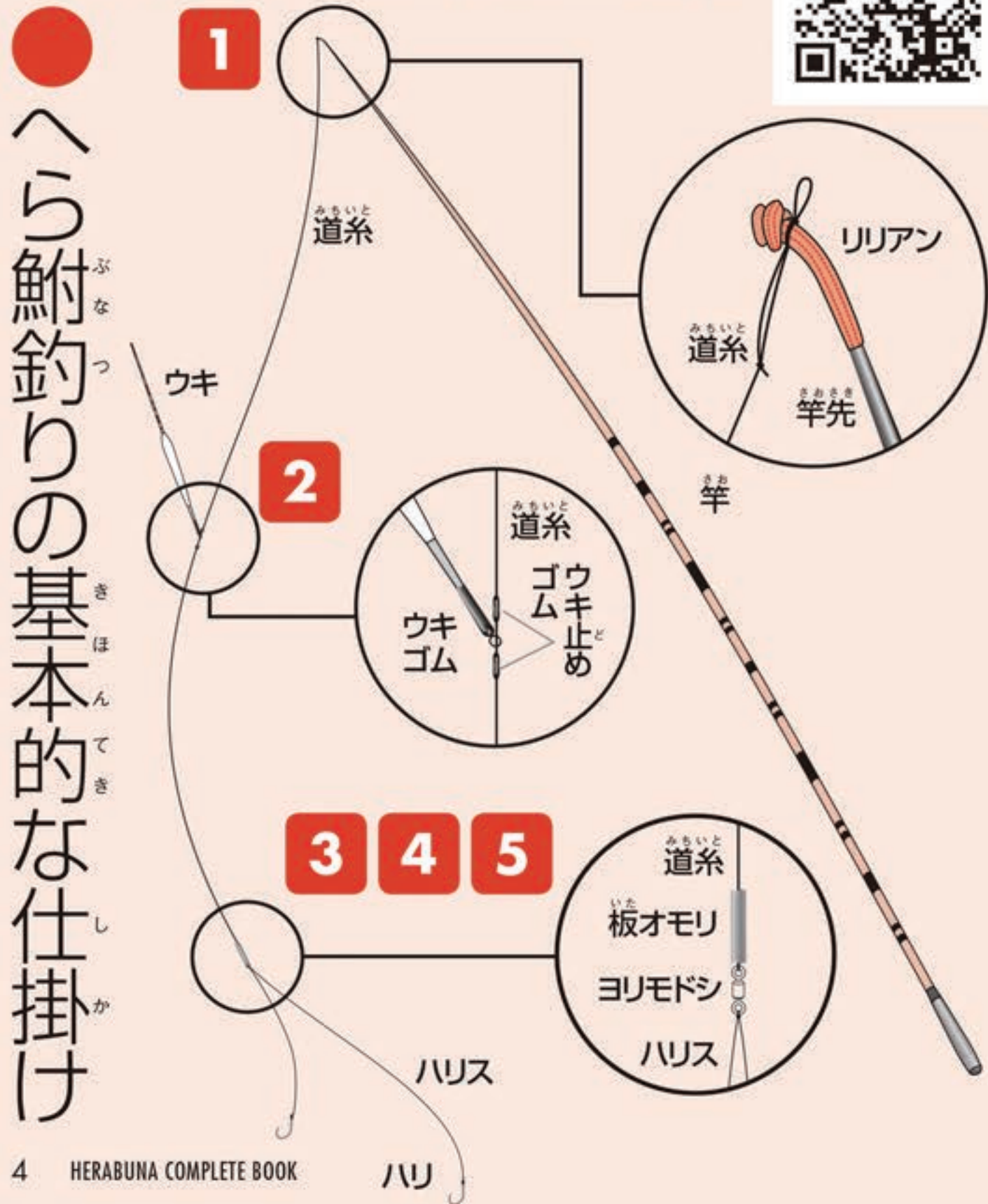


2 仕掛けの作り方

へら鮎釣りの仕掛けは非常にシンプルにできています。むずかしいことはありませんので、慣れれば誰にでも簡単にできます。あせらずにいねいに作るよう心がけましょう。

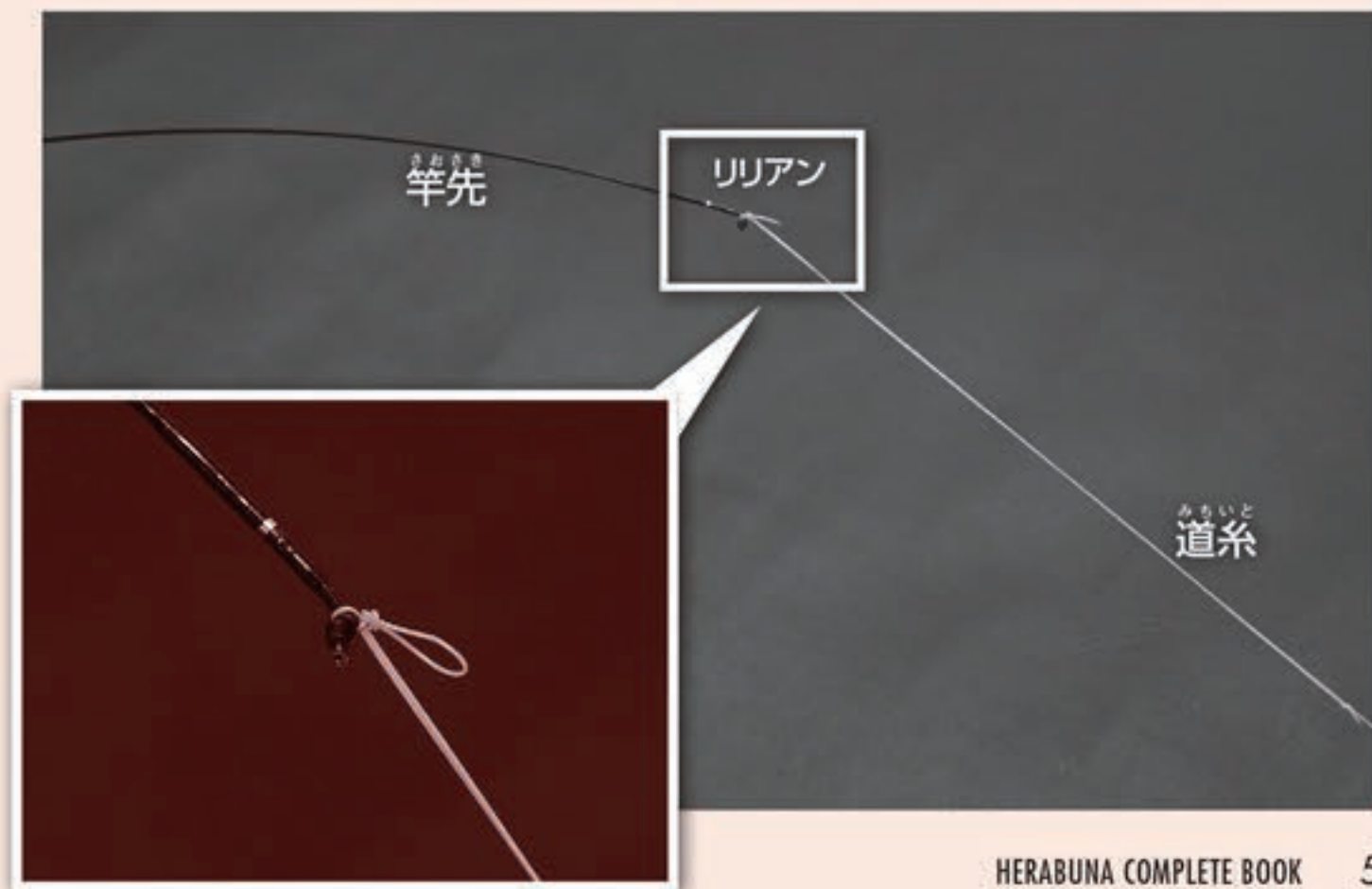
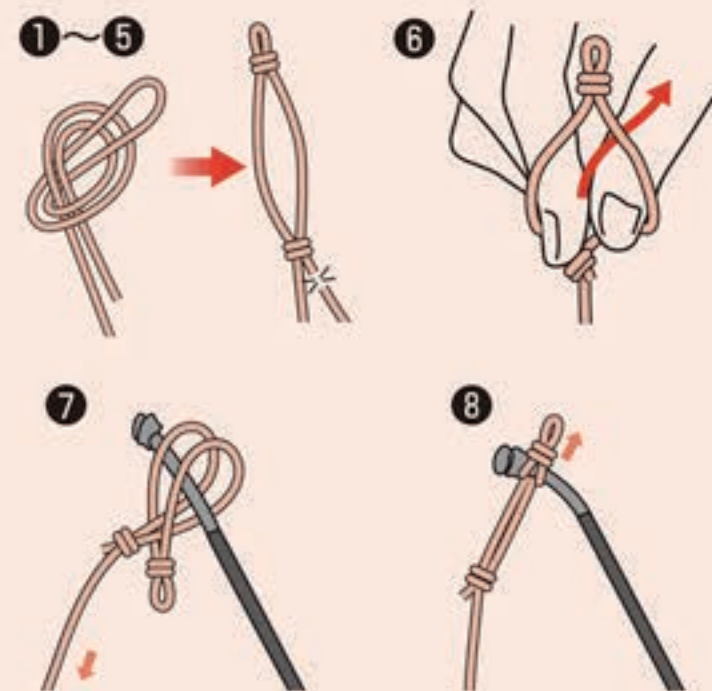


へら鮎釣りの基本的な仕掛け

1 道糸を竿先に付ける

道糸で輪（チチワと呼ぶ）を作り竿先に結びます。

- ① 道糸を30cmほどの長さで折り返し、片方の指で2本を押さえる。
- ② 折り返した部分をもう一方の手で持ち、手前に倒すようにして円を作る。
- ③ 円の交差した部分を押さえ、折り返した頂点を円の下から通す。
- ④ 通した折り返しの頂点を引っ張り、結び目を固定する。そのあとで余分な糸を切る。
- ⑤ 同じ要領で、輪の先端に小さな輪を作る。これで大きい輪と小さい輪の2つができる。
- ⑥ 大きな輪の中に親指と人差し指を入れ、本線をつまんで輪の中に引き入れる。
- ⑦ ⑥でできた輪に竿先を入れて本線を引いて締める。
- ⑧ 小さい輪を引くと簡単に外すことができる。



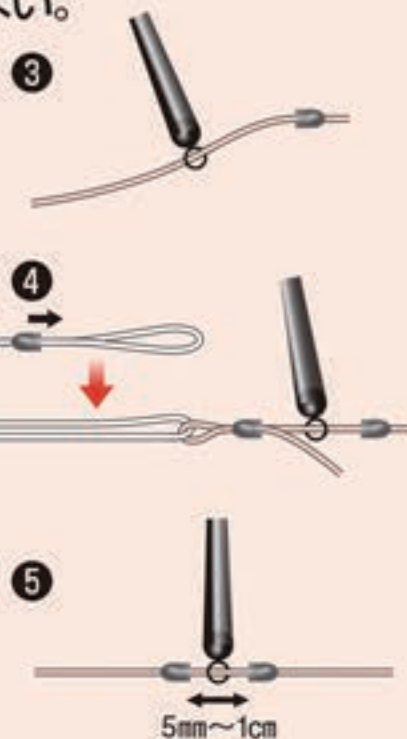
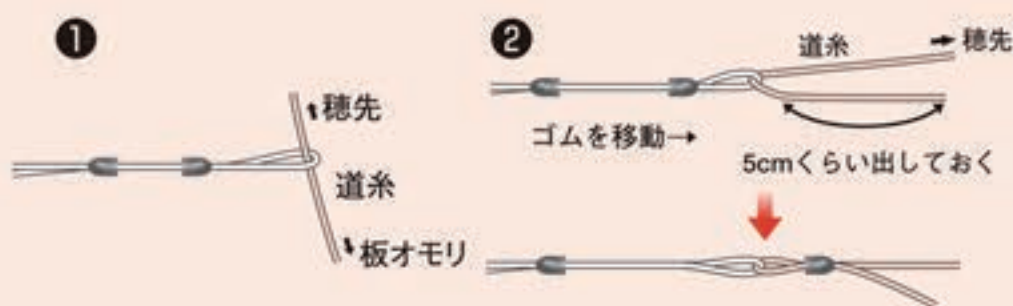
2 仕掛けの作り方



2 ウキ止めゴム、ウキゴムを道糸に通す

道糸にウキを取り付けるためのウキ止めゴム、ウキゴムを道糸に通す。浅ダナ釣りの場合は、竿先に道糸を結んだあとで、チョーチン釣り、底釣りの場合は、その前に作業するとよい。

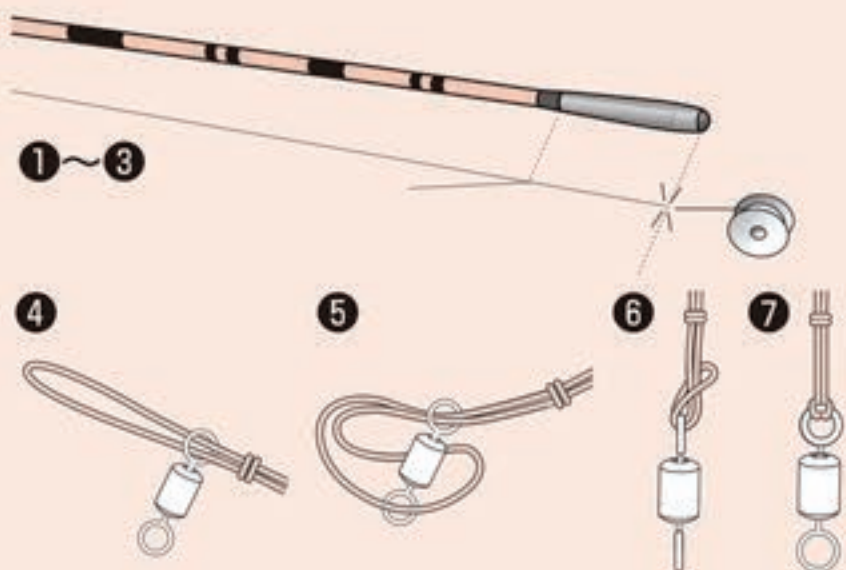
- 市販のウキ止めゴムを1つ道糸に通す。ウキ止めゴムには細いハリガネが二重に通してあり、その輪に道糸を通す。
- ゴムの部分を押さえながら、ハリガネを引っ張りゴムに道糸を通す。ウキを固定する位置にゴムを移動する。
- ウキゴムに付いている輪に道糸を通す。
- もうひとつのウキ止めゴムを同じように道糸に通し移動させる。
- 2つのウキ止めゴムの間を5mm～1cmほど空けておく。



3 道糸にヨリモドシを結ぶ

道糸とハリスを結ぶ連結具となるヨリモドシを道糸と接続します。

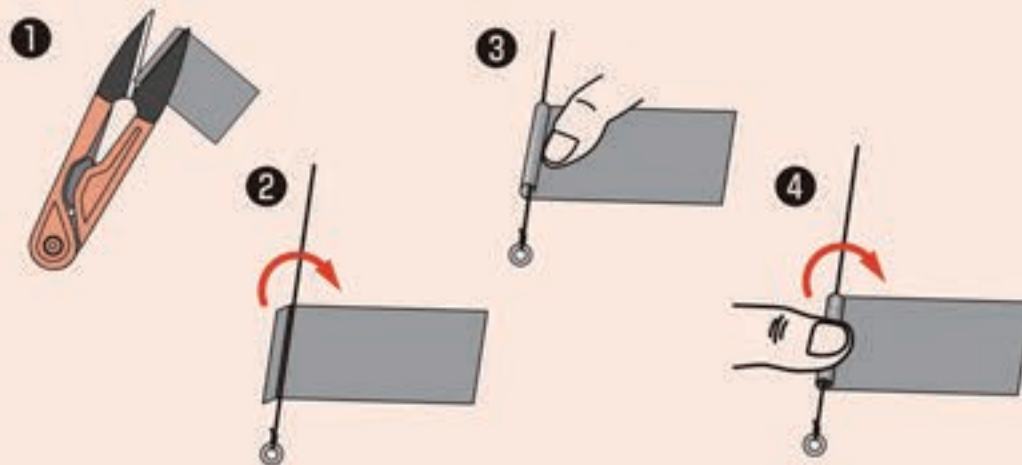
- 道糸を竿の握り一杯の長さで切る。
- 握りの上部にヨリモドシの位置がくるように、その位置で道糸を折り返す。
- 竿先に結ぶ時と同じ要領で小さい輪をひとつ作る。余分な糸は切る。
- ヨリモドシの輪に小さい輪を通す。
- 通したあと、輪を広げてその中にヨリモドシを入れる。
- ヨリモドシを持って固定した状態で道糸を引っ張る。
- ヨリモドシの円にしっかり固定されたらできあがり。



4 道糸に板オモリを巻く

ヨリモドシの上部の道糸に板オモリを巻きます。

- 3cm程度の大きさに板オモリを切る。
 - 板オモリの端にハサミで折り目を付ける。
 - その折り目に道糸をはさむ。
 - 折り込んだオモリの端を、ツメで押し込みきれいに整える。
 - 残りのオモリを丸め、平らなところで転がし真円に近づける。
- ※オモリの巻き方が雑だと、仕掛けが絡まったりしますので、ていねいに巻きましょう。



5 ヨリモドシにハリスを結ぶ

ヨリモドシに長さの違うハリスを2本結びます。

- ハリスの長さを決めて輪を作る。
- ヨリモドシに輪の部分を通す。
- 輪にハリを通してゆっくり引っ張る。
- ヨリモドシとの接合部を締め込む。これを2本結ぶ。

